



後  
補

奉  
納  
後  
漢  
紀  
事

四



へ  
達  
13  
1687  
4



1687  
4

三州  
康高  
林



本朝菴陰比事卷之四

目録

- 一 腕くひハくエいのた本もと町まち
- 一 支し支し支しのの妹い背せ山さん
- 一 山やま葵あひハは黄わう金こんのの吸すい口くち
- 一 喰く合あとと知ちるるぬぬ入いググ程ちやうをを
- 一 飛と見みのの水みづ餅もちハは清きよきき祈いのち

饗庭六八庫



- 一 利リは迷ヨシふ中九布クが後ウシ智シ恵エ
- 一 敷ヤは切キかき警ケイ原ゲンが射シ獵リョク

本朝菴陰比事卷之四目錄

本朝菴陰比事卷四

○ 脱トクハ工コウ丈ジョウの炭ツギ本ホン町チヨウ

久キウ思シ言ゴン上ジョウは私シ儀ギをいイらラき町チヨウはハ源ゲン六ロク戸コ若ニハらハ以ヨて  
 夜ヤあハ九クのノ時トキにニ土ツチをヲふるルをヲ炭ツギとシてシ切キわハけテ序コをシ入ル  
 的テ四シりシやシとシてシひヒをシとシてシ切キわハけテ序コをシ入ル  
 罪ツミ入ル五イのノ章シヨウ袋フクロとシてシかカきキ也ヤ人ニをシとシてシ序コをシ入ル  
 してシ振フるル一ヒト戸コ解トクはハ仕シらレおハ口クをシとシてシ序コをシ入ル  
 此コノ序コはハ序コのノまマにニかカがガ趣ソツはハ隣リンをシ友トシのノ候コトとシてシ序コをシ入ル  
 えハ此コノおハしテ序コのノ面オモとシてシ序コをシ入ル  
 内ウチりシ工コウ屋ヤ乃ノ中ナカ吟イン味ミ仕シ六ロク年ネン貞チヨウ上ジョウ納ナツ罪ツミをシ相サウ見ミてシ序コをシ入ル  
 此コノ序コはハ序コのノまマにニかカがガ趣ソツはハ隣リンをシ友トシのノ候コトとシてシ序コをシ入ル

ハニシ...

...

...

一此のうらみなくはせられぬ。たの片腕持来仕て此のうらみ  
を思はぬ味を伴付するうらむわらわくしてまぬいし

月日

保六刺

地及たの片腕と云はれわつ小太のひとわらわらうもく守若の  
さゆかり指し小齋わらう一矢あて射ら若の船从く平生  
がむらと指しゆらまひまひいりてえぬれた。治長すまひか  
らりたし。目比も方が家。出入るうらめおわらわらう  
ゆきづひおれたうた下飛しうらまひのたし。あうまひ  
てりし出さるくすては。は腕あむぢにわらわらる。春のからうま  
入玉下し。し律乃玉の依母じやあむく。腕とえぬまひのうら  
りたし。あむぢ門アとらうて入るうらまひ作付られぬおとまひ

ざら内比たより。中へ西解わりのうら。父敷乃指南信ら。の才子  
乃名をうら。強むまきけひさるべし。己おらり。才子と  
わらひ。他は仕つる。病をふて引込す。らむりの。何月。日ら  
いつくす。うらむら。病をふら。何やまひ。はと。醫  
若々何某く。若。病。信。後。く。微。細。よ。ま。つ。け。ま。つ。べ。し。を  
ん。そ。く。強。一。五。後。日。お。わ。ら。ま。ひ。か。い。て。の。お。ら。ま。ひ。作。付。ら。る。べ  
き。後。か。こ。ゆ。り。大。敷。乃。師。治。く。才。子。中。と。は。り。ら。ん。と。し。ら  
小。才。子。数。計。百。九。十。七。人。内。他。五。人。下。若。六。十。九。人。而。分。病  
氣。よ。り。こ。り。わ。ら。ま。ひ。の。指。ま。ひ。は。ぶ。さ。ふ。書。付。と。持。来。す。ま。ひ。に  
大。指。ま。ひ。お。わ。ら。ひ。ひ。り。も。の。病。治。は。る。醫。治。は。る。と。し。ら。ま。ひ。を  
と。ま。ひ。お。わ。ら。ひ。と。ふ。病。性。と。ま。ひ。の。ま。ひ。を。し。ら。ま。ひ。を。持。付。付。付。と。し。ら







際合ふ小の後の身を打ててそとへさうとさきよりいひをてぬよ  
辰妻の女房さむらひとつらふてわれう比なうさう男の八幡  
おれど多ふやうゆゑさう角金つ女房おの世の世は相掛はゆ  
をばれてゆふいとまひははらわたりおれどおてイトをさ  
らひさう今さびいあおとぬ方うかたれ地は修くさうさ  
まふとさうとわれ二人の女房さむらひさういひおひあり  
あうと地村は村おのうらあふたあは住居さうあまを人  
と女房二人あお海の中さうおと眼かきあうよ女房のさ  
入ては世はさうとゆふれいひさうあり

○山葵ハ黄金の吸口

乃思云上は私ハ和河河瀬布を念を思つて若くはさう一匹七

日暮尚らん。出火よつとさてよ上乃町まで焼きたうた。またたふ  
つつけ宛處よまきりも高きゆのかん世屋へゆ。五日は出入は若  
小村村風上へのけをさうとあ内におもあふりさてその高きを  
お入はいつさふおはらせつものうら三つおん下さす。まわらふ後  
三像えれわらふは表の中よ山葵えれわらふた乃はらうたれら  
あうさうおと今日もておまらえた。あまもあれやさういひのゆ  
らもお糸の巾ゆれ。おとんとん下といひ上

月日

金太夫の列

地をさうとされもあなゆのが園賣也と物え返すとて是服店  
わらはらおれ。お打ちわらわとゆすりおて。さうさ。六盗賊のはま  
おまのさう三人の因縁。おとんとんとてその高きゆの何と入さう







子。さうして其のまゝに。いふ所の。あつて。さういふ。うゝの。解つて。く  
 命の。後。は。ま。ま。の。と。よ。と。今。世。に。使。つ。つ。あ。つ。つ。を。宥。先。は。つ。つ。一。ん。ん。  
 物。の。ま。え。は。は。ま。ま。の。と。よ。と。一。ね。む。が。は。は。は。の。あ。つ。つ。大。根。と。い。ふ。は。ま。  
 して。あ。つ。つ。い。ふ。ま。ま。の。と。よ。と。一。ね。む。が。は。は。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。と。あ。つ。つ。  
 一。ま。お。料。理。の。ま。ま。の。と。よ。と。一。ね。む。が。は。は。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。と。あ。つ。つ。  
 と。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 や。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 ち。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 かの。後。は。ま。ま。の。と。よ。と。一。ね。む。が。は。は。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 ひと。た。か。く。盗。賊。乃。被。官。小。お。お。く。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 現。世。は。生。怖。く。極。退。は。人。の。首。と。な。り。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。

い。ゆ。う。く。み。の。た。は。せ。と。な。も。一。ん。ん。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 ま。り。て。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 は。ま。ま。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 ま。ま。の。あ。つ。つ。

月日

の陰を  
あつた

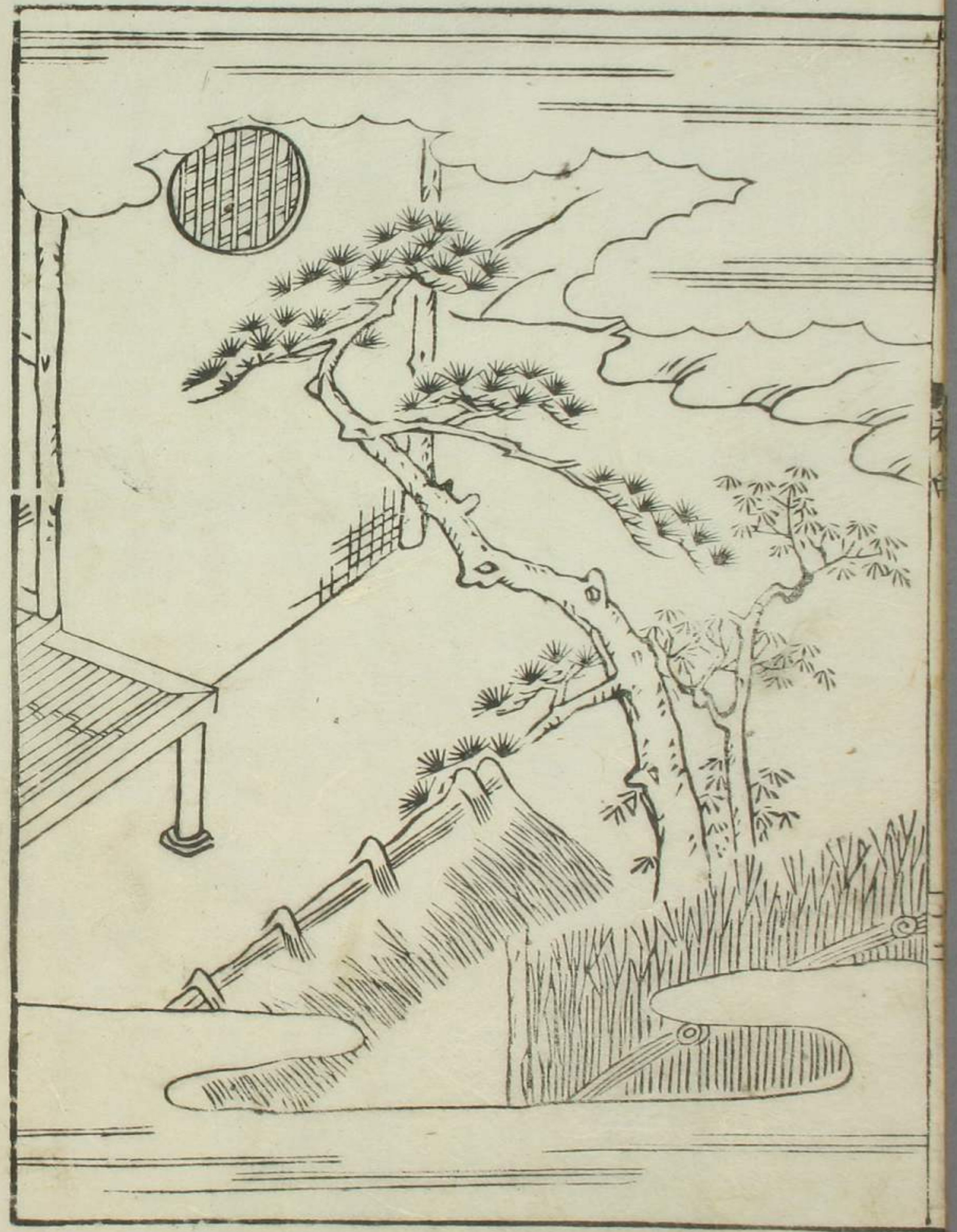
地。は。ま。ま。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 盜。賊。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 捕。ま。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 入。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 丁。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。  
 かく。は。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。の。あ。つ。つ。

おおしくしぬわらふ。今わのけでよめまはさす。いふはさる。あな  
 子角乃質垣と云ふ。入玉。いれと人。いふはさす。あな。いふはさる。  
 と。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 今味わらふ。例の俊快。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 まり。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 夜。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 極。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 ちれ。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 て。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 ちれ。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。

○飛見の水新ハ清キ新

今思ふ上は。私依の。高野。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 若。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 わり。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 水。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 今。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 と。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 ま。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 う。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 は。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。  
 大。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。いふはさる。











ふび程腹中とねたひ昼夜たるとし小村醫者たれとしべん  
お疾仕人の町田大教玄尊とし醫術たつと手扱くめと  
つこれ今乃世の普婆而慈と某が疾くそく小自勝とる  
よつと世傳が療治ぬのといふと慈業と治りいふと月ひ  
尸のハその病とそとるよりおの介京外正傳かといはれり  
うと留てんせりとて業と治りといふお述とよりそれより腹  
らり尸めて三日のうらふおも收養の色なく今別お果尸の徳とて  
ふけりといふ公醫者くともおと療治のか減医者とてまんと  
病と起せりといふかしてわつと子乃命を人くといふ尸の  
の身と法人大切のめらといふひ尸とて殺して殺しは同か  
れ科人とていふお世傳のたれといわつて法身といふたれい

るは慈悲よかたをいふと尸とつわつててまよひの上

月日

上比ちり判

地をまゝいれ醫療のりつて余とそするとのめりす  
愚癡ありかの普婆も大聖釈迦の命とすといふといふ  
未代の醫者といひんといひ醫と恨むといふて殺つて候あり  
たを年の世間といふと醫者といふとて醫の名をいふと  
乃んけ命と治れり積たつ候ありといふは若たは親よ勅當り  
地のまゝお業よ悔意り流浪の身とありていふとやうかくて  
つと小醫の乃んけと治るといふとて殺業といふはたつと  
して形とわきかゝる實僧同おなり。後世りたは若く種花と膏て  
もは過すといふといふかゝる方よありてて法類とたがり

て醫乃其也とはり。大切の命根と形ハ税と費と頑氣なりあり  
かりをくそし人殺さんふりあり。と人をもそく強執わ  
まておれと枕りて自傍の山と賣えをくすれとうに二遊あり  
て汝世料と殺しうはわね。歌とれといふ細いなり。とるがう  
去當とらう出れ死別にうのわりけとめとすのて尸よひんま  
代極めよ版中とらうと尸ゆ人聖薬殺と一味用ひんハお味とぬ  
このおれハ又版がらうとらうゆ人巴豆と用ひてお味とら  
ハ又とらうすらうと尸ゆ人私智とや。聖薬殺と巴豆と一味  
酒合はり用ひん。例の巴豆ハとらうんとや。聖薬殺ハとら  
くととらひハ業カハ威勢とわらひ版中とそ福らわひ延わひ  
ととらとわらひ版へ草茶とわらひひいしてお味とそとらと

なすうらよ。病入温字の付。三日ニ夜絶食はら。とんく草叶ま  
つり。病の介は養生と遊いん。び方ハうらうらとわらとんと尸  
よら地ハ茶と色あひん。とれづり。と療治す。及ぶとら。はあり。向  
候ハ世上の者眼とわらと。聖薬とそあひ。とら。草茶。不。お味  
ありと。聖者か。とら。は。今。時。庸。醫。ハ。首。わ。ら。ま。ら。と。ら  
仏。師。ハ。乃。理。と。ら。ひ。也。此。業。し。つ。死。た。う。と。や。汝。世。料。も。定  
業。と。そ。ん。ど。お。ひ。わ。ら。ら。て。遠。恨。と。ゆ。び。す。わ。ら。ら。と。そ  
とく

本館藏隱比事卷四終

本館藏隱比事卷四終

